

PROGRAM NOTE

2016年2月



私のロシア 青木郁子 (宮城県在住)

中波で「ロシアの声（現ラジオスポートニク）」を聴き始めたのは11年前のことでした。ラジオのチューニング中、偶然「ロシアの声」に触れ、放送内容の豊かさと格調の高さに好感を覚え毎日聞くようになりました。それが高じて、ハバロフスク支局の岡田和也アナウンサー制作番組「シベリア銀河ステーション」で紹介した【シベリア植林ボランティア】に参加し始めました。これは、日本の【NPO・むさしの多摩ハバロフスク協会 <http://mxta.org>】が主催する活動です。

列車で何時間走っても針葉樹林が続くシベリアの森に「なぜ木を植える必要がある？」と思うでしょうが、近年、違法伐採された木が、経済発展と建築ブームに沸く中国にどんどん送られたり、タバコやバーベキューをした後の火の不始末、落雷による山火事など、複数の原因によりシベリアの森林が急速な勢いで失われているのです。私が滞在する8日間に山火事の煙を見ない日はありません。失われていく速さに木の生長が間に合わず「荒廃が進むことは必至」とロシアの研究機関でも結論付けています。木を植える場所の選定、苗や作業用具の調達など、おおよその下準備は、現地の営林署が調えて下さるのですが、体の大きなロシアの人が使うスコップの柄が長すぎて使いこなせなかったり、ドライブインのお手洗いがあまりにも汚くて、日本のシティボーイは用が足せないなど珍事頻発のうちに、チョウセンゴヨウマツという針葉樹の苗を約5000本植えて作業は終了します。活動には、環境学や森林学を学ぶロシアの学生とのセミナー（e.g. 「森林利用の在り方と土砂水理学」）も組まれており、終了後、学食で昼食をともにします。また、先住民族ナナイ族の村を訪ね、子どもたちの伝統芸能を見せてもらったり、一緒に折り紙をして遊びました。ソ連時代、ナナイ語が禁じられロシア語に統一されたのですが、今は失われた言語文化を取り戻そうと学校でも教える努力をしているそうです。しかし、正しいナナイ語を教えられる人が既に無く、70年という時の流れが消し去ったものを再び取り戻すのは不可能かもしれない、村の古老は嘆いておられました。大国が先住民族を支配したことによる悲劇の一端を確認する想いでました。

私とロシアの出会いは、高校時代にトルストイやドストエフスキイの小説を読んだことに始まります。そこに描かれたロシアの白樺林や雪解け道の恐ろしいぬかるみ、貴族たちの深夜に及ぶパーティーやそこに供される白鳥などの料理、「サモワール」など見たことも聞いたこともない生活道具。あらん限りの想像力を以て、鉄のカーテンの向こうの世界を脳裏に描いてみました。やがて、ロシア文学の道に進むことを考えたのですが、明治生まれの祖母の「アカは絶対にいけません。」との言葉に、無知な孫娘は反論の術を持たずあっさり軌道変更をしてしまいました。

そして30年後、心の奥に埋火のように灯っていたロシアへの思いは「ロシアの声」と【仙台ロシア合唱団】との出会いによって再燃し始めました。

【仙台ロシア合唱団 http://music.geocities.jp/sendai_rosia_g/】はロシアの歌を専門に歌う合唱団です。ロシア民謡からロシア歌曲、ソ連時代の映画音楽など、そこ表現される内容は、壮大な自然あり、恋のかけ引きあり、囚人の絶望あり、閉ざされた冬の後の春の喜びあり、コサック兵のわが子を思う子守唄あり、それは無限と思われるほど広く深いロシア音楽の世界です。二つの出会いは私の人生に大きな彩りを添えてくれました。スパシーボ！



サタデー・トーク

バイブル・トーク

きき手 尾崎一夫 毎週土曜日放送

淀橋教会 峯野龍弘主管牧師 毎週日曜日放送

2月06日	東北リスナーの集い in 仙台 (1)	2月07日	聖書遊覧バス：ヨシュア記 (4) 淀橋教会主任牧師 峯野龍弘
2月13日	東北リスナーの集い in 仙台 (2)	2月14日	リスナーからの「お便り交換の時間」
2月20日	関東リスナーの集い in 東京 (1)	2月21日	聖書遊覧バス：ヨシュア記 (5) 淀橋教会主任牧師 峯野龍弘
2月27日	関東リスナーの集い in 東京 (2)	2月28日	聖書遊覧バス：ヨシュア記 (6) 淀橋教会主任牧師 峯野龍弘

放送後の番組は、ホームページ(<http://japanese.reachbeyond.org>)のトップページ左側メニューにある『インターネット放送』のリンクページからお聴きいただけます。（mp3形式）

放送時間：日本時間 午前7時半～8時 17760kHz (再放送) 午後8時～8時30分 15400kHz
(米国アリゾナ州制作／オーストラリア送信)